

鳥取市政懇話会（第4回）「地域産業活性化」部会 協議内容

- 1 日時 平成22年6月3日（木）午前10時40分～12時00分
- 2 会場 鳥取市役所本庁舎6階第1会議室
- 3 出席者 委員（9名）、中瀬農林水産部次長、経済戦略課 濱崎主事、
企画調整課 井上

4 議事概要

（1）農商工連携マッチングフェア in 米子について

資料に基づき事務局で簡単に説明。

（2）意見交換

「農商工連携を推進する具体的取り組み」

- 委員 自給率40%。農業の振興のため、国・県・市が取り組みを。
- 委員 生産調整の面積割合も40%。規模拡大ができない制度になっている。
- 委員 中部地域ががんばっている。クラスター形成に取り組む倉吉市のふるさとプロデューサー、倉吉商工会議所が手掛けるインターネットショップ「くらしよし市場」の視察をしてみたい。→事務局で研究を。
- 委員 「もうかる農業」は会社組織以外にはない。
- 委員 連携のもととなる農産物は、ある程度のロットが必要。→事務局で生産量が多い農産物を調査。
- 委員 県の農商工連携の事業に5件新規採択があり、2件が東部。①二十世紀梨のサプリ（中部）②地大豆・県産魚によるこだわりとうふちくわ（東部）③ねばりっ子による練り製品（中部）④漬物「春夏秋冬」（東部）⑤ブルーベリー茶（西部）。ブルーベリーは東部にもあるのでは（倭文、吉岡温泉町、安蔵）。
- 委員 特産品は出尽くした。すでにあるものから選んで、鳥取ブランドにふさわしいものを推進する。
- 委員 竹林の世話で困っている。竹炭の推進を。
- 委員 建設業界がしぼんでいる。重機を活用した農業転換を進めてはどうか。
- 委員 モサエビを使ったせんべいおいしい。情報発信で火が付く。「火の付け方」を研究すべき。
- 委員 ハタハタ、モサエビなど水産物にもロットがまとまるものがある。→水産物、林産物についても生産量が多いものを調べる。

- 委員 新商品開発の補助金をもらうためには、申請書類の作成の労力が大変。
- 委員 商工会議所や行政が手伝える。
- 委員 市のリードのもとに、農・商・工の連携の場を作ること。ラッキョウ栽培でも、機械化で省力化できるはず。専門分野の人が集まる場を作る。特に若手の農業者や青年会議所などに意見を出してもらう。
- 委員 そういった異業種交流が大事。

(3) その他

次回開催は平成22年8月の予定です。